

市立甲府病院医療安全体制等検討委員会

DVT 予防対策マニュアル等に関する報告書

貴院よりご依頼のありました「DVT 予防対策マニュアル」及び、「周術期肺塞栓症対策マニュアル」の内容について検討させていただいた結果を報告いたします。

- 「DVT 予防対策マニュアル」と「周術期肺塞栓症対策マニュアル」が別々にあるが、一元化したマニュアルの方が実際には活用しやすいのではないかと。また、おのおの表裏1枚のみで情報量が少ないように感じられる。
- 引用してある「肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン」のアドレスを掲載するのみで、予防やリスク分類はそれに順ずるとの記載だけでは対策マニュアルとして不十分ではないかと。活用しやすいものにする為にも、予防やリスク分類に関して具体的なものを表等にまとめ、マニュアルに掲載されてはどうか。その上で、どの文献からの引用であるかを明確にしておくために「肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン」のアドレスを記載されると良いのではないかと。
- 発症を疑った時の診断・治療手順が曖昧。もっと具体的に示した方が活用しやすくなるのではないかと。（できればフローチャートみたいなものの作成を検討していただきたい。もしもすでに作成されているのであれば、一元化したマニュアルの中に掲載していただくことを検討していただきたい）。
- どの時点で主治医（又は当直医）に報告し、専門医（循環器）に相談するのか判断できるように、発症を疑う場合の症状なども記載されていると、より迅速な対応につながれるのではないかと（経験や知識に頼るのではなく、何らかの指標を示すことで、より判断しやすい状況になると考えられる）。
- 主治医（又は当直医）と専門医（循環器）のどちらが行うべき検査かが不明瞭。緊急時の対策を明確にした方が職員は動きやすい。
- 術前に DVT が見つかった際の肺塞栓症予防目的の下大静脈フィルターの適応についての記載がない。
- 患者用（？）のパンフレットを作成して啓蒙することはよいが、看護師に対する看護の点で注意すべきことなども具体的に加えた方がよい。

以上